

早稲田大学 人間科学部 現代文 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分（現代文2問、古文・漢文融合1問）
特徴・その他	

〔大問別講評〕

番号	出典	コメント	難易度
(一)	鷺田清一 『老いの空白』	問題文は近年頻出の鷺田清一氏の文章である。読み易い文章と、分かりやすい内容、標準的な設問と、受験生に対して良心的な出題となっている。したがって一つのミスが致命傷となる。	標準
(二)	木田元 『哲学の横町』	哲学者・木田元氏の言葉をめぐるエッセイからの出題。問六は設問の形式に少し戸惑うかもしれないが、難しい問題ではない。問十の文学史、問十二の漢字問題は絶対に落としてはならないレベルである。 標準的な問題であるだけに、基本的な問題での失点は避けたい。	標準

〔総合コメント〕

<p>基本的な語句・漢字、文学史を地道に学習し、学校や予備校の一回一回の授業を大切にしていれば対応できるレベルである。良い意味で基礎学力が問われる問題である。テクニックに走るのではなく、文章をきちんと読む訓練を続けることが一番の対策になる。</p>
--